

分野:統合分野 科目:在宅看護論方法論 I		単位 (時間)	1 (30時間)	開講 時期	2年次
講師名	保健福祉センター保健師 理学療法士 学内教員	実務経験 保健所、医療機関に勤務			
授業概要	地域で行われる看護活動の1つである公衆衛生看護の役割と機能を理解する。 リハビリテーションにおける基本的な考え方、またその関わり方を理解する。 地域で療養しながら生活する人々をその家族に対して、効果的な患者教育を行うための教育・指導の知識と技術を理解する。				
到達目標	1.保健師活動の役割と機能を理解できる。 2.リハビリテーションの基本的な考え方及び援助方法を理解できる。 3.対象者に意図的に働きかけ、精神・身体面における可能性を引き出し、個々の療養者の生活行動面の営みの変容を促す方法を理解する。				
授業計画	回	授業内容	授業方法	講師	
	1	在宅看護論方法論1【 4時間 】 保健師活動の役割と機能	講義	保健福祉センター保健師	
	2	保健機関とその活動	講義	保健福祉センター保健師	
	3	在宅看護論方法論2 リハビリテーション【 15時間 】 リハビリテーション看護 リハビリテーション看護を必要とする人	講義	理学療法士	
	4	リハビリテーション領域における基本理論 生活行動の再獲得に向けた支援	講義	理学療法士	
	5	リハビリテーション看護の基本的な方法	講義	理学療法士	
	6	発達と老化からみた支援	講義	理学療法士	
	7	介護実習普及センター見学	講義	理学療法士	
	8	発達と老化からみた支援	講義	理学療法士	
	9	介護実習普及センター見学 寝返り・起き上がり・立ち上がり・移乗 終了試験	演習	理学療法士	
	10	在宅看護論方法論3 指導技術【 11時間 】 看護の教育機能 指導の対象と領域 指導の基本となるもの	講義	学内教員	
	11	学習理論 社会的学習理論	講義	学内教員	
	12	看護における指導のプロセス 媒体	講義	学内教員	
	13	パンフレットの作り方 個人指導と集団指導	講義	学内教員	
	14	事例展開(自己効力感) 終了試験	講義	学内教員	
使用テキスト等	医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 別巻1 リハビリテーション看護 プリント資料				
評価方法	学科試験、出席状況(態度)、課題レポート				

分野:統合分野 科目:在宅看護論方法論Ⅱ		単位 (時間)	1 (30時間)	開講 時期	2年次
講師名	外部講師・学内教員	実務経験 看護師として医療機関に勤務			
授業概要	地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅における看護実践能力の基礎を習得する。				
到達目標	1. 在宅看護の技術及び疾患別在宅看護の実際を理解する。 2. 在宅における看護実践の基本知識を学ぶ。 3. 在宅で求められる援助技術を実施できる。				
授業計画	回	授業内容	授業方法	講師	
	1	在宅看護論方法論Ⅱ-1【15時間】 呼吸・嚥下・摂食に関する在宅看護技術	講義		
	2	排泄・移動・移乗に関する在宅看護技術	講義		
	3	認知症・終末期看護・疼痛管理	講義		
	4	褥瘡・留置カテーテル・ストーマ	講義		
	5	経管栄養	講義		
	6	在宅中心静脈栄養・非侵襲的陽圧換気療法	講義		
	7	在宅酸素療法・人工呼吸器	講義		
		終了試験			
	8	看護過程の展開【15時間】 訪問看護の実際	講義GW	学内教員	
	9	訪問看護において必要な倫理と態度	講義	学内教員	
	10	在宅療養の成立条件・訪問看護について	講義	学内教員	
	11	障害高齢者の日常生活自立度判定	講義	学内教員	
	12	在宅における家族 自己効力理論	講義	学内教員	
	13	訪問看護ステーション 保健所業務 地域支援事業	講義	学内教員	
14	地域包括支援センターの機能 介護保険サービス	講義	学内教員		
15	訪問看護のマナー	講義	学内教員		
使用テキスト等	医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 プリント資料				
評価方法	学科試験、出席状況(態度)				